



学校だより

7 月 号
2019年6月28日
横浜市立中村小学校



HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakamura/>

夏を前に

副校長 高野 てるみ

昇降口の庇にツバメの巣があります。梅雨空が続く中、親鳥が頻りにえさを運び姿を子ども達が見上げています。春から夏にかけて、子育てに励む親ツバメと、顔いっぱいにくちばしを広げてえさを待つヒナを見上げて、心が和みます。

6月は中村オリンピックから始まりました。1週前に大変な暑さの中運動会を行った学校も多く、本校も当日に向けて、暑さ対策の検討を重ねました。幸い、猛暑には至りませんでした。それでも暑い中、保護者・地域の皆様からのご声援やご協力をいただき、ありがとうございました。子ども達は、中村オリンピックに向けて練習を積み、それぞれが達成感を得ました。オリンピックを通して、子ども達がひとつ自信をつけたり、仲間と協力して成し遂げる喜びを感じたりできたことは、大きな成果だと思います。また、特別支援学校の児童・生徒の皆さんと共に進む形は、中村小学校ならではの特色あるもので、日ごろからの交流あってのもです。4月に着任した私にとっては初めての光景で、感動でもありました。共に学び合えるこの環境は、両校児童・生徒のみならず、教職員や保護者・地域の方にとっても大きな宝だと思いました。

6月13日には、「まちとともに歩む学校づくり懇話会」が行われました。各町内会会長、平楽中学校校長、中村特別支援学校副校長、主任児童委員、キッズクラブチーフ、南区子ども家庭支援課担当、本校PTA本部役員、校外委員といった、本校をいろいろな立場から支えてくださっている方々をお招きして、本校の教育活動や児童の様子などについて話し合いました。自分から挨拶する子が増えたという話の一方、中には反応が乏しい子もいるとのご意見もありました。朝、忙しくて目もみずに話をして送り出していたな、と振り返る保護者。子どもも大きくなると口を利かない時期があったり、朝は不機嫌なことがあったり、また、特性から目を見ることが苦手だったりすることもあるとのご意見もいただきました。目を見て明るく元気に挨拶をすることは大事ですが、それぞれ事情があるということも理解していきたいです。日頃から学援隊の皆様には、子ども達を温かく見守り、お声がけしていただき、ありがとうございます。学援隊のメンバーを増やしたい実態もあります。保護者や地域の皆様でご協力いただける方は、ぜひご連絡をください。ほかにも、親の姿を見て子が育つので、交通ルールなど正しい手本を示したい、公園にごみを捨てないでほしい、といった声もありました。貴重なご意見をありがとうございました。

7月は、4年生の宿泊体験学習、三者面談等があります。早いもので夏休みがもうすぐです。前期の前半を落ち着いて過ごせますよう、今後ともご協力をお願いいたします。